



大山健太郎

社団法人東北経済連合会 常任理事
産業政策委員会 副委員長

デフレ経済から抜け出すための需要創造

昨年はリーマンショック以降二番底が懸念されましたが、世界経済は各国の景気対策が功を奏し、緩やかな回復基調にあります。しかし、日本経済は政権交代などにより大胆な景気対策ができず、エコポイント制度で家電や自動車産業など、一部の産業で業績回復が見られたものの、依然として停滞しています。また、これまで日本経済を牽引してきた輸出産業では、昨年の初めは1ドル=92円だった為替相場が、年末には82円まで円高が進み、より一層日本経済の停滞感を強く映しています。

このような状況は今後も続くものと思われ、このデフレ経済から抜け出すためには、今の供給過剰な市場からの脱却が必要だと考えています。日本では景気対策として、雇用を維持するために市場が縮小しているにもかかわらず、企業淘汰をさせず救済してきました。更に小売業においては、自らがSPA（製造小売り）を行うことで、供給者になるケースが増えています。本来であれば市場原理が働き、供給過剰になれば供給者が淘汰され、需要と供給のバランスが保たれてきたわけですが、市場原理が働かず、市場に多くの供給者がいるためにデフレ経済が続いてきました。供給過剰な市場から抜け出すためには、企業が新しい需要を創造し、新しい市場を作ることで抜け出せると考えています。

新しい需要創造としてCO₂の削減がキーワードになると考えています。低炭素社会を実現させるためには省エネルギーに移行することが求められます。省エネルギー化を進めることで、家庭も企業においてもコスト削減が図れることが重要です。新しい需要を創造するに当たって、当社がどう貢献していくのかと考えた時に、家庭や企業で取り組み易くするために投資コストの回収に着目し、いくらなら投資するかを起点に値ごろ価格を算出し、LED電球を開発しました。市場を創造するためには消費者のニーズを的確に把握し、消費者が買う価格でなければ市場は拡大しません。当社はイルミネーションライトのノウハウを活かし、LED照明に参入しましたが、まだまだCO₂削減につながる商品はたくさんあると思います。

日本経済は世界に類を見ない人口の減少、少子高齢化が進んでいます。従来の商品・市場に捉われることなく、成長の見込める市場に積極的にチャレンジし、新しい需要を創造していかなければ、日本経済は衰退する一方となり、また人口の減少を生む負の連鎖から脱却できなくなってしまいます。新しい需要を創造することが、負の連鎖を止められる手段であると考えています。

(アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役社長・おおやま けんたろう)